

【板橋区】胃がん検診 平成24年度プロセス指標等一覧シート

＜国の指針に基づく胃がん検診の実施状況＞

対象年齢（40歳以上）	している
検査方法（胃部X線検査）	している

＜国の指針に基づくもの以外の実施状況＞

対象年齢以外の実施	35～39歳
左記以外の検査の実施	ペプシノゲン検査

＜住民の検診受診状況＞

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	146,784	155,733	302,517
【東京都調査による対象者率（区部）：60.5%】			
実際の受診者数	2,539	3,298	5,837

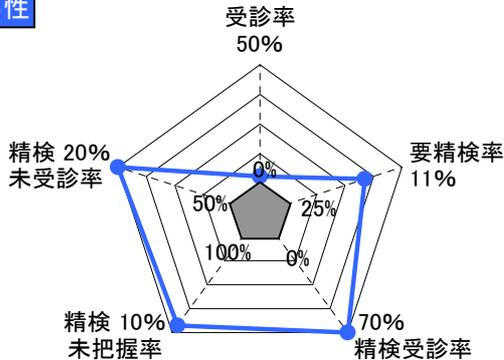
＜区市町村の受診率向上（精検含む）体制＞

対象者の名簿を作成して台帳管理	していない
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	していない
精検未受診者への精検受診勧奨	している

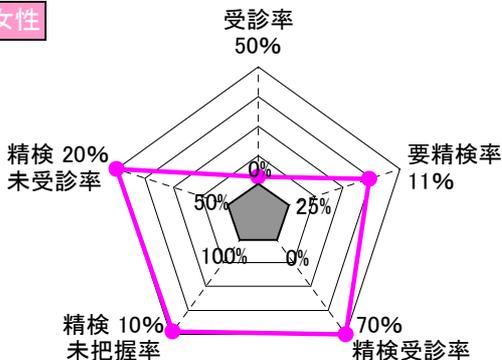
＜がん検診の質を評価する指標（プロセス指標）＞

	あるべき値 （許容値等）	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	2.9%	3.5%	3.2%
要精検率	11%以下	15.6%	14.8%	15.1%
精検受診率	70%以上	79.7%	85.5%	82.9%
精検未把握率	10%以下	16.7%	12.7%	14.5%
精検未受診率	20%以下	3.5%	1.8%	2.6%
陽性反応適中度	1.0%以上	0.5%	0.4%	0.5%
がん発見率	0.11%以上	0.08%	0.06%	0.07%

男性



女性



【評価結果】

＜受診率＞

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にし、受診率50%を目指す必要があります。

＜要精検率＞

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんでなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

＜精検未把握率＞

精検未把握率が許容値達成まであと一歩です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握を進めましょう。

【板橋区】 肺がん検診 平成24年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく肺がん検診の実施状況>

対象年齢（40歳以上）	している
検査方法（胸部X線検査及び喀痰細胞診）	している

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	35～39歳
左記以外の検査の実施	していない

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	146,784	155,733	302,517
【東京都調査による対象者率（区部）：66.6%】			
実際の受診者数	2,428	2,869	5,297

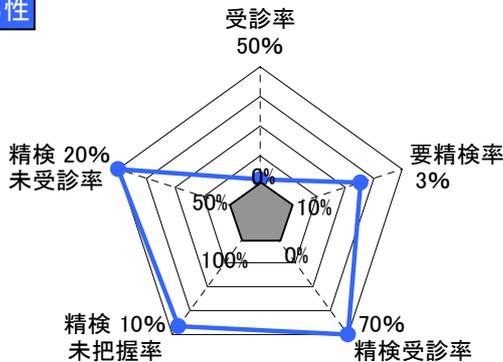
<区市町村の受診率向上（精検含む）体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	していない
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	していない
精検未受診者への精検受診勧奨	している

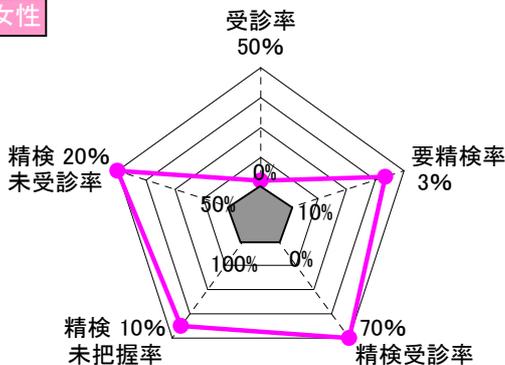
<がん検診の質を評価する指標（プロセス指標）>

	あるべき値 （許容値等）	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	2.5%	2.8%	2.6%
要精検率	3%以下	5.6%	4.1%	4.8%
精検受診率	70%以上	77.8%	78.2%	78.0%
精検未把握率	10%以下	17.8%	21.0%	19.3%
精検未受診率	20%以下	4.4%	0.8%	2.8%
陽性反応適中度	1.3%以上	3.0%	0.0%	1.6%
がん発見率	0.03%以上	0.16%	0.00%	0.08%

男性



女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にし、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

<精検未把握率>

精検未把握率が許容値達成まであと一歩です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握を進めましょう。

【板橋区】大腸がん検診 平成24年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく大腸がん検診の実施状況>

対象年齢（40歳以上）	している
検査方法（便潜血検査（二日法））	している

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	35～39歳
左記以外の検査の実施	していない

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	146,784	155,733	302,517
【東京都調査による対象者率（区部）：66.3%】			
実際の受診者数	27,887	44,443	72,330

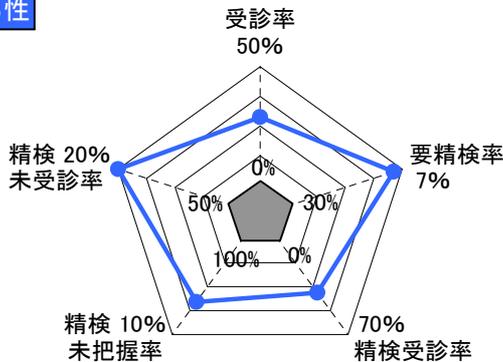
<区市町村の受診率向上（精検含む）体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	一部該当
過去3年間の受診歴を記録	していない
精検未受診者への精検受診勧奨	している

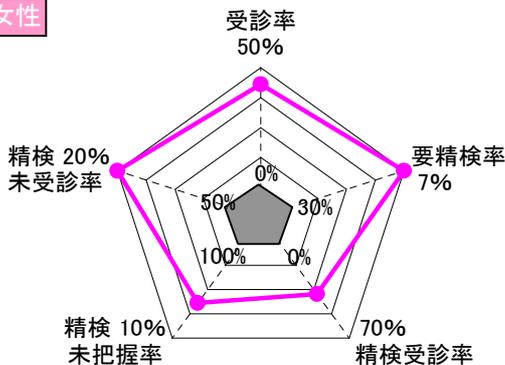
<がん検診の質を評価する指標（プロセス指標）>

	あるべき値 （許容値等）	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	28.7%	43.0%	36.1%
要精検率	7%以下	8.7%	6.0%	7.1%
精検受診率	70%以上	39.4%	38.2%	38.8%
精検未把握率	10%以下	40.8%	42.4%	41.6%
精検未受診率	20%以下	19.8%	19.4%	19.6%
陽性反応適中度	1.9%以上	2.3%	1.7%	2.0%
がん発見率	0.13%以上	0.20%	0.11%	0.14%

男性



女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にし、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんでなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

<精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

<精検未把握率>

精検未把握率が非常に高く、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考に問題点を整理し、精密検査結果の把握方法を検討してください。

【板橋区】子宮頸がん検診 平成24年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく子宮頸がん検診の実施状況>

対象年齢（20歳以上：隔年）	一部毎年
検査方法（細胞診）	している

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	20～29歳は毎年実施
左記以外の検査の実施	していない

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		232,993	
【東京都調査による対象者率（区部）：63.7%】			
実際の受診者数		21,835	

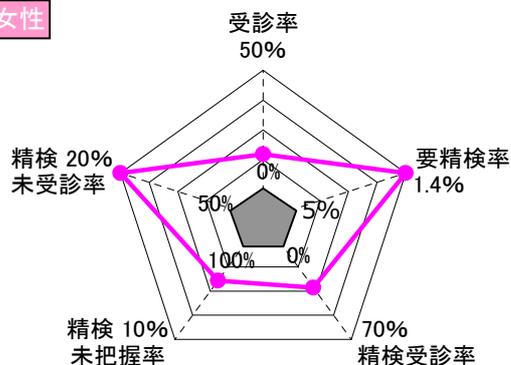
<区市町村の受診率向上（精検含む）体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	していない
個別に受診勧奨	一部該当
過去3年間の受診歴を記録	していない
精検未受診者への精検受診勧奨	している

<がん検診の質を評価する指標（プロセス指標）>

	あるべき値 （許容値等）	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		14.7%	
要精検率	1.4%以下		1.0%	
精検受診率	70%以上		32.5%	
精検未把握率	10%以下		65.0%	
精検未受診率	20%以下		2.6%	
陽性反応適中度	4.0%以上		3.4%	
がん発見率	0.05%以上		0.03%	

女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にし、受診率50%を目指す必要があります。

<精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

<精検未把握率>

精検結果が把握されておらず、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、早急に精密検査結果を把握できる体制を検討してください。

【板橋区】乳がん検診 平成24年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく乳がん検診の実施状況>

対象年齢（40歳以上：隔年）	している
検査方法（視触診及びマンモグラフィ）	している

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		155,733	
【東京都調査による対象者率（区部）：72.3%】			
実際の受診者数		15,849	

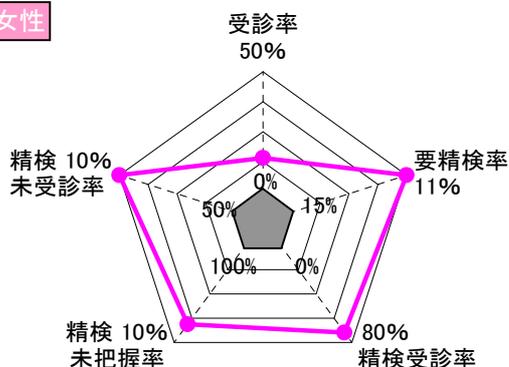
<区市町村の受診率向上（精検含む）体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	していない
個別に受診勧奨	一部該当
過去3年間の受診歴を記録	していない
精検未受診者への精検受診勧奨	している

<がん検診の質を評価する指標（プロセス指標）>

	あるべき値 （許容値等）	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		14.1%	
要精検率	11%以下		9.9%	
精検受診率	80%以上		71.6%	
精検未把握率	10%以下		27.0%	
精検未受診率	10%以下		1.4%	
陽性反応適中度	2.5%以上		3.9%	
がん発見率	0.23%以上		0.39%	

女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にし、受診率50%を目指す必要があります。

<精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

<精検未把握率>

高めの精検未把握率です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握が必要です。